

10月上旬のビニル被覆により

施設栽培カキ「太秋」は12月出荷が可能である

カキ「太秋」の露地栽培では、出荷が11月中旬で終了するため、12月のギフト商材に利用するための出荷期間延長技術の開発が望まれています。そこで、熊本県農業研究センター果樹研究所では着色始期（10月上旬）にビニルを被覆する抑制栽培による出荷延長技術を確立したので紹介します。

☆技術の概要

- 10月上旬にビニル被覆を行う「太秋」の抑制栽培は、果実周辺の温度を高めることで、果実の着色を遅延させ12月の収穫・出荷が可能となります。また、12月出荷用として残す果実は、着色が遅い果実が適することがわかりました。
- 抑制栽培は露地栽培に比べて果実の着色が遅れ、日持ち性も長くなり12月出荷が可能です（表1、図1）。
- 抑制栽培のハウス内の温度は、露地栽培に比べて日平均で0.8℃、日最高で3.3℃高くなります（データ略）。
- 10月下旬に着色が進んだ果実は、収穫までに樹上で軟化する割合が高くなります（データ略）。
- 収穫した果実は、収穫後日数が経つにつれ食感（サクサク感）が低下しますが、10月下旬の着色が遅い果実ほど食感が維持できます（図2）。

表1 「太秋」の抑制栽培および露地栽培の収穫時期別の果実品質（2016）

収穫日	果皮色			果肉硬度 (kg)	糖度 (Brix)	食感 (サクサク感)
	果底部	赤道部	果頂部			
抑制栽培 11月4日	2.9※	3.1※	3.9※	1.5	16.6※	3.0
抑制栽培 11月15日	3.5	3.7	4.2※	1.3	17.7※	2.8
抑制栽培 11月25日	4.3※	4.2	4.7※	1.1	18.6※	2.4
抑制栽培 12月5日	4.8※	4.8※	5.0※	1.2	18.9※	2.4
抑制栽培 12月15日	5.6	5.1	5.4	1.0※	19.6※	2.7
露地栽培 11月4日	3.5	3.7	4.8	1.4	19.2	3.0
露地栽培 11月15日	3.7	4.0	4.7	1.4	19.8	2.9
露地栽培 11月25日	4.7	4.6	5.2	1.1	20.7	2.6
露地栽培 12月5日	5.5	5.2	5.3	1.1	19.9	2.2
露地栽培 12月15日	6.0	5.3	5.3	0.9	21.6	2.2

注1) 果皮色：カキのカラーチャート値  
 注2) 食感：3サクサク感あり、2ややサクサク感あり、1サクサク感なし  
 注3) ※は同日収穫日の果実でt検定により5%水準で有意差あり

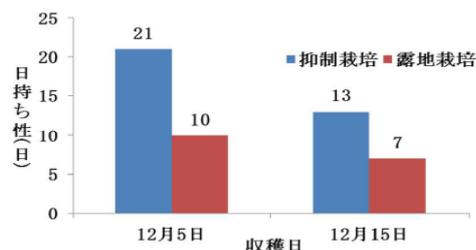


図1 「太秋」の抑制栽培および露地栽培の12月収穫時果実の日持ち性（2016）

注1) 果実は室温にて裸果で調査  
 注2) 障害果、過熟果を除き収穫盛期に収穫した果実を外観上、商品として流通できる期間を収穫からの日数で評価し、その平均日数で示した

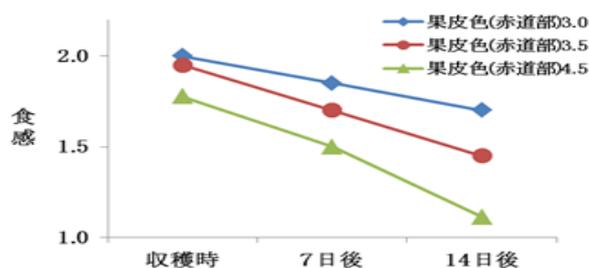


図2 抑制栽培「太秋」における10月下旬の果皮色の違いが収穫後の食感に及ぼす影響（2018）

注1) 収穫日：12/5  
 注2) 食感：3サクサク感あり、2ややサクサク感あり、1サクサク感なし

☆活用面の留意点

- 抑制栽培はハウス内の温度を高めるため、サイドまでビニルで被覆しますが、ハウス内が30℃以上にならないよう換気を行ってください。
- 条紋や炭そ病等が発生している果実や着色が早い果実は、収穫前に樹上で軟化する可能性が高いので早めに収穫してください。
- 詳細については、熊本県農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室(TEL:0964-32-1723)までお問い合わせください。（農研機構果樹茶業研究部門 研究推進部 水本 文洋）